

4. 子ども読書活動推進計画

「第2期豊中市子育て・子育て支援行動計画 こどもすこやか育みプラン・とよなか」に継承した「豊中市子ども読書活動推進計画」の理念に基づき、関係部局・施設・団体・市民と連携しながら、子どもの読書環境の整備と読書活動の推進に取り組んでいる。

子ども読書活動連絡会を2回開催し、GIGAスクール構想^{*1}における豊中市「一人一台タブレット」導入の状況や、ビブリオバトル^{*2}をテーマに情報共有と意見交換をおこなったほか、「2021年度版とよなかこども読書マップ」を更新した。アンケートからは、コロナ禍においても、子ども読書活動連絡会での交流や情報交換が必要という意見が寄せられた。

今後も子ども読書活動連絡会の協力体制のもと、子どもの読書活動の推進に取り組む。



第2回子ども読書活動連絡会

*1 学校における高速大容量のネットワーク環境および児童・生徒一人に一台端末の整備、などを推進する文部科学省の施策。令和元年より開始。

*2 ルールに則って、おすすめの本を紹介し合うコミュニケーションゲーム。

5. 事業報告

◆ 暮らしの課題解決

図書館では市民生活のうえで特に関心の高い課題として、4つのテーマ「医療・健康情報（岡町）」・「多文化共生（庄内）」・「ビジネス・就労（千里）」・「子育て・DV（野畑）」を設定している。新型コロナウイルスの影響により、関係部局・機関と連携したセミナーの開催などが困難な中、各テーマにそった資料収集や情報提供などを工夫しておこなった。

各テーマごとの取り組み（市民協働事業については別途掲載9ページ）

医療・健康情報	<講座>
	○認知症サポーター養成講座（5回 会場：岡町、庄内、野畑、東豊中、蛍池図書館 共催：長寿安心課・豊中市キャラバンメイト連絡会）
	○小学生対象の認知症サポーター養成講座（会場：高川図書館 共催：緑地地域包括支援センター高川分室）
	<関連資料の展示・貸出その他>
	○闘病記の巡回展示（千里、蛍池図書館）
○図書館 Web サイト上の闘病記リストの更新	
○「広報とよなか」の該当箇所を拡大掲示（岡町、蛍池図書館）	

<p>多文化共生</p>	<p><選書></p> <ul style="list-style-type: none"> ○とよなか国際交流協会を通して、市内在住の外国語を母語とする人へ読みたい本・必要とする本（外国語で書かれたもの）のニーズ調査を実施 ○書店が開催する外国語資料の選書イベントに参加 ○調べ学習資料のSDGs英語書籍（絵本）を購入 <p><多文化コーナーのPR></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本語教室」（会場：庄内公民館 主催：とよなか国際交流協会）での情報提供（関連資料のリスト・外国語版の「豊中市立図書館を使う方へのお知らせ」（貸出のきまり）を配布、図書の展示） <p><配本・貸出></p> <ul style="list-style-type: none"> ○とよなか国際交流協会への外国語資料の配本・貸出
<p>ビジネス・就労</p>	<p><ブックリストの提供></p> <ul style="list-style-type: none"> ○とよなかまちゼミ（主催：meet-upとよなか オンライン講座と少人数での対面講座をメインに実施）で、参加された店舗のゼミのテーマにそってブックリストの作成・提供 <p><ビジネス・就労支援サービスのPR></p> <ul style="list-style-type: none"> ○パスファインダー「業界動向」「事業を始める・起業」「特許・知的財産」「就職・転職」「事業承継」の改訂 <p><配本・貸出></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「豊中しごとセンター」と「とよなか起業・チャレンジセンター」へのビジネス・就労支援関連資料の配本・貸出
<p>子育て・DV</p>	<p><パネル展></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童養護施設パネル展と関連図書の展示と貸出 （会場：岡町図書館 主催：児童養護施設・大阪水上隣保館 翼） <p><PR・その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○みんなが子育て応援団 モバイルスタンプラリー （会場：岡町、庄内、庄内幸町、千里、野畑、東豊中、服部、高川、蛍池図書館 主催：こども政策課 「赤ちゃんの駅」登録の子育て応援施設である全図書館が、スタンプスポットとして参加） ○パスファインダー「子育て」の改訂

◆ レファレンスサービス

資料をつかって日常の疑問や、仕事に必要な情報など、市民のさまざまな調べもののサポートをしている。関連機関や相談窓口・専門家の紹介もおこなう。

レファレンス記録の一部は国立国会図書館レファレンス協同データベースへ登録し、Web公開している。令和3年度の被アクセス件数は、参加館878館中第6位、市町村立図書館の中では平成27年度以降7年連続で第1位となった（令和3年12月31日現在）。また、調べ方マニュアルに「1970年万国博覧会（大阪万博／EXPO'70）を知るブックリスト」「千里ニュータウンを知るブックリスト」を登録した。

「図書館雑誌」（日本図書館協会）令和3年（2021年）6月号には、職員による記事「れふぁれんす三題噺●連載その二百八十五 豊中市立図書館の巻『“紙”から広がるレファレンス—情報の世界の窓口として—』」が掲載された。

新規データベースとして「毎索」（岡町）、「官報情報検索サービス」（千里）、職員による代行検索ができる「ジャパンナレッジLib」・「WhoPlus」（全館）が導入され、レファレンスに活用されている。



新規データベース導入ポスター

◆ 個人貸出サービス

<貸出室・一般図書コーナー>

令和3年度の個人有効登録者数は1.2%増加。緊急事態宣言期間が2回あったが、継続貸出を除いた成人書の個人貸出冊数は10.2%増加。年齢別貸出人数（15才以上）は14.1%増加している。全館臨時休館中は予約の受け渡しをおこない、その後も一部のサービスを制限した上で開館したことにより、利用が回復してきたと考えられる。特徴的なのは、令和2年度であってもそれほど減少していなかった個人予約件数が26.1%増加、その中で、図書館Webサイトによる個人予約件数が28.1%増加していることである。来館して予約する、各館カウンター窓口・館内OPACによる個人予約受付件数は15.5%増加なので、Webサイトでの予約数が大幅に伸びたといえる。コロナ禍を経て、非来館型サービスであるインターネット予約が急速に拡大した。

緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の対応に終始した1年間であったが、利用者の協力により感染拡大防止対策を講じながらできる限り開館を続け、サービスの提供につとめた。

- | | | |
|---------------------------------|---------------------|---------------------------|
| ■登録率 35.1% | ■個人有効登録者数 140,454 人 | ■年齢別貸出人数（15才以上） 744,039 人 |
| ■継続貸出を除く個人貸出冊数(成人書) 1,519,606 冊 | | ■個人予約件数 961,047 件 |
| ■個人予約件数(Web+携帯) 825,412 件 | | ■個人予約件数（館内） 135,635 件 |

<こども室・児童書コーナー>

14才以下の個人有効登録者数は2.5%減少したが、年齢別貸出人数は26.1%増加した。また、児童書の貸出冊数は25.5%の増加、個人貸出冊数は27.4%増加した。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策としての全館臨時休館やサービスの制限、空調更新工事の休館などで、貸出人数や貸出冊数が減少していたが、令和3年度はともに回復し、前年と比べると大幅増となった。

定例のおはなし会は休止する館が多かったが、感染者数が減少した時期などには、少人数や事前申込制にするなど工夫をして実施する館もあった。

「本の福袋」の貸出をおこなう館もあり、年齢・学年や、季節に合わせた選書で好評を得た。

また、豊中子ども文庫連絡会50周年記念の取り組みとして、図書館資料を貸し出すとともに工作シート（約1700枚）を子どもたちに手渡した。

出前講座は、新型コロナウイルスの影響で中止となることも多い中、感染が落ち着いた時期に地域の子育てサロンへの出張や、刀根山高校の家庭科で絵本の授業にも取り組んだ。

さらに、野畑図書館での第二中学校の作品展示「旅行ガイドをつくろう」をはじめ、多くの館で学校図書館との連携展示を実施した。

また、子育て支援センターほっぺと連携し、豊中市こども相談課公式ツイッター「ほっぺちゃん通信」にて子育て世代に絵本の紹介をおこなった。

- 個人有効登録者数（14才以下）22,189人
- 年齢別貸出人数（14才以下）158,438人
- 継続貸出を除く貸出冊数（児童書、団体含む）1,179,414冊
- 継続貸出を除く個人貸出冊数（児童書）1,102,694冊

◆ブックスタート事業「えほんはじめまして」

絵本を通して赤ちゃんと保護者が楽しいひとときを過ごし、心ふれあう時間を持つきっかけとなることを目的とし、子育て・子育て支援事業の一環として4か月児健康診査時に実施している。図書館と母子保健課、そして「豊中子ども文庫連絡会」・「おはなしボランティアポケット」をはじめとする市民ボランティアが連携・協働し、絵本を手渡してきた。この事業は、母語が外国語の人や障害のある人を含む、市内のすべての赤ちゃんとその保護者と関わりを持つ貴重な機会である。

しかしながら新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は健診会場において母子保健課を通じて引換券を配布、後日図書館にてブックスタートパックと引き換える形とした。令和3年度は配布方法を見直し、会場で直接絵本の入ったブックスタートパックを保健師から手渡した。

スタッフミーティングなどは感染拡大防止対策のうえ、対面で実施。さらにブックスタートスタッフ研修として青山台文庫・絵本学研究所主宰の正置友子さんを講師として赤ちゃんと絵本をテーマに講演会を開催。スタッフが理解を深める機会とした。



ブックスタートスタッフ研修

◆ヤングアダルト（YA）サービス

ヤングアダルト（YA）とは、主に中学生・高校生（12～18才）の世代を指す。

野畑図書館でおこなった第二中学校生徒のおすすめ本リスト展示は、学校のWebサイトで学校長に紹介されたこともあり、好評であった。千里図書館では大阪教育大学附属池田中学校の生徒による展示をおこなった。千里図書館で活動するYAらぼ（YA世代のボランティア）は、世代交代しながら令和2年度同様に計8人が登録。主にメールでのリモート活動をおこない、「YA! BOOKS通信」の作成や、夏休みにおすすめの本の紹介をおこなった。また「ミニときどき！おはなし会」にも参加し、絵本の読み聞かせを通じて子どもたちやその保護者との交流の機会をもった。



大阪教育大学附属池田中学校生徒による展示

- 個人有効登録者数（12～17才）16,734人（18～21才）6,171人
- 年齢別貸出人数（12～21才）57,329人

おもな取り組み	実施館
中学生職場体験学習おすすめ本POP展示	岡町、千里、蛍池図書館
子ども読書活動フォーラム展示	岡町、庄内、千里、野畑図書館
各館の取り組み	
とよなか男女共同参画推進センターすてっぷとの連携展示「なりたい自分」になろう！	岡町図書館
市内高校への学校訪問、YA!BOOKS通信20号発行(豊中市・大阪府出身の作家のおすすめ本紹介)、千里青雲高校文化部発表会において図書館紹介のブース設置、第十六中学校生徒のボランティア活動の受入、大阪教育大学附属池田中学校生徒による展示、千里青雲高校図書委員によるおすすめ本POP展示、YAらぼによるときどき！おはなし会、高校情報パンフレット展示と配布	千里図書館
第二中学校生徒調べ学習展示・おすすめ本リスト展示、高校情報パンフレット展示と配布、十八歳成人制度関連展示と啓発パンフレット配布	野畑図書館
小中学校連携巡回POP展示	東豊中図書館
第十二中学校生徒によるエリア内小学校での紙芝居会(新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙芝居会を収録したDVD配布による実施)、エリア内の小中学校と連携し夏休み中にスタンプラリーを実施	高川図書館
第十八中学校生徒による職場体験学習に代わる取り組み「地域の事業所応援紹介冊子作成」への協力(蛍池図書館紹介ページ)、学校図書館の活動紹介と作品展示、高校情報パンフレット展示と配布	蛍池図書館

◆ 高齢者サービス

豊中市立図書館協議会から令和3年3月に提出された「豊中市立図書館における高齢者サービスのあり方について(報告書)」を踏まえ、高齢者が社会、地域とつながり、人生をより豊かに生きる社会の実現に向けて、以下のように取り組んできた。

庄内図書館では、高齢者のニーズに合わせ、ストレッチ、スマートフォンの使い方、一人分の食事レシピなど、老後の前向きな暮らしを考える資料を集めた「シニアライフ応援コーナー」を設置している。介護老人福祉施設やデイサービスセンターへの団体貸出、配本サービスもおこなっている。また、市内全域の高齢者施設に対して、図書館資料のリサイクル活用の希望を募り、3施設に299冊譲渡した。庄内公民館と連携し、高齢者の参加も多い公民館講座で、図書の展示・貸出とブックリストの配布もおこなっている。



「たかがわ地域子ども教室」作品

高川図書館では「たかがわ地域子ども教室」を夏から冬にかけて7回開催した。高齢者の経験と特技を地域の子どもたちに伝える異世代交流の場となっている。また、緑地地域包括支援センター高川分室との共催で小学生対象の「認知症サポーター養成講座」を開催。市内の各図書館(岡町、庄内、野畑、東豊中、蛍池)でも、長寿安心課および豊中市キャラバン・メイト連絡会と共催し、「認知症サポーター養成講座」を実施した。

蛭池図書館では、毎月来館される高齢者施設への団体貸出をはじめ、認知症についての図書を集めた「認知症の棚」、大きな活字の本、高齢者向けの紙芝居を一角にまとめ、手に取りやすい配置としている。また、毎月替わるアナログレコードの展示・貸出では、懐かしさを感じる高齢者の関心を集めている。



アナログレコード展示

◆ 障害者サービス

身体上の都合で来館できない市民に宅配や郵送で資料の貸出をおこなっている。また、視覚に障害がある人などを対象に対面朗読を実施している。

対面朗読はWeb会議システムを活用するとともに、ボランティアと利用者の両者来館による実施も含め、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめつつ、サービスを提供した。緊急事態宣言下で来館の制限がある際には職員による対面朗読を実施し、「ICレコーダーによる代読録音サービス」^{*1}についても前年度に引き続きおこなった。

委託製作している音点訳図書の製作候補の選定にあたっては、例年以上に幅広く利用者のリクエストを取り入れられるよう、個別に聞き取りをした。

令和2年度と同様に「音訳ボランティアフォローアップ講座」^{*2}は、感染拡大防止策をとりながら対面で実施できた。

活動開始から40年を迎えたDaigasグループ“小さな灯”運動北東部支部より、プレクストークPTR3^{*3}とデイジー図書再生可能なCDラジカセの寄贈があり、伊藤忠記念財団からマルチメディアデイジー図書「わいわい文庫」の寄贈があった。マルチメディアデイジー図書については市販品も購入し、蔵書の一層の充実を図った。

図書館協議会では図書館での読書バリアフリーの取り組みについて議論を重ねている。障害者サービスについて広く知ってもらうために資料展示を岡町図書館2階の貸出室でおこなった。障害者サービス資料についてテーマごとに展示することで、障害者サービスの対象ではない来館者からも関心を持ってもらうきっかけになった。

今後は図書館協議会での審議や当事者意見の聞き取りの結果などをふまえて、より良いサービスのあり方を考えていく。

*1 利用者が希望する資料の朗読をICレコーダーに録音し、CDで提供。

*2 音訳ボランティアの技術向上のため実施している講座。

*3 視覚に障害のある人が音声で読書するための卓上型デイジー図書再生録音機。

◆ 行政へのサービス（庁内仕事応援事業）

庁内各部署に対する資料の貸出やレファレンスサービスに加え、ブックリストの配布や庁内サイトへの掲載による、各職階の新任職員研修や課題研修での情報提供をおこなっている。レファレンスでは、「プロジェクトチーム立ち上げに関する参考資料」や「事業実施に伴う過去の経緯の確認」などについての依頼が多かった。

また、市議会議員の調査活動に資するため、市議会図書室を通じて市立図書館の蔵書を提供するしくみを構築した。

◆ 団体へのサービス

学校、放課後子どもクラブ、幼稚園、保育所（園）、こども園、高齢者施設、障害者施設、子ども文庫・おはなしボランティアグループ・読書会などの市内の活動グループに資料貸出などの支援をおこなっている。

<学校図書館>

学校内での児童・生徒のリクエスト対応の支援や、調べ学習に使用する資料の提供など、基本的なサービスを実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響も少しずつ落ち着いたとみられ、特に2学期以降はグループでの調べ学習を実施する学校が増えた。令和3年度は、小中学校図書館への貸出冊数は前年比10.7%増。

毎年2回開催している学校司書と公共図書館司書との地域館交流会は、前期にWeb会議システムで、後期に対面で実施し、学校・公共間および、地域の学校間での情報交換などをおこなった。千里図書館では、小学校への図書館だよりの内容を、従来の来館を促すものではなく、本の探し方のヒントを扱った記事に内容を改めた。高川図書館では、夏休みスタンプラリーを実施したほか、第十二中学校の紙芝居会のための選書と読み方指導の協力をおこなった。また、担当エリアの小中学校卒業生全員に高川図書館YAコーナーのPR文を、小中学校教員には教員支援用資料の中から貸出ベストの紹介と教員向け資料の検索方法を案内するおたよりを配布した。蛭池図書館では、ロビー展「学校図書館大集合」を実施し好評であった。

岡町図書館の団体リサイクル常設コーナーには、学校司書が来場し、学校図書館や学級文庫用の本を選んだ。利用校数は16校、利用冊数は693点であった。

■小中学校図書館への貸出冊数 59,204 冊（継続貸出12,188冊含む）

<学校図書館支援ライブラリー>

学校図書館の「読書」・「学習・情報」・「教員支援」の3つの機能をサポートしている。岡町図書館のパッキング資料（調べ学習サポートパック・図鑑セット・総合百科事典ポプラディア）については、特に図鑑や総合百科事典ポプラディアの利用が多かった。令和3年度は、総合百科事典ポプラディア第三版（全18巻）が出版され、12セットを購入した。また、要望のあったポケット版動物図鑑（小学館の図鑑 NEO POCKET）も新たに購入、その他、図鑑や調べ学習に活用できる資料を追加購入した。

<幼稚園・保育所（園）・こども園・放課後子どもクラブなど>

幼稚園・保育所（園）・こども園・家庭保育所・認可外保育所に、季節や行事などに関係する資料の貸出をおこなっている。平和・家族・仕事などテーマの資料に関するリクエストも多い。貸出や受取場所などについて各施設の相談にも応じ、選書・配本の協力をおこなっている。小学校の放課後子どもクラブには図書館が選定した定評のある本・紙芝居などを配本・貸出していたが、令和4年度からサービス変更となる。そのため、放課

後こどもクラブに貸出していた本を回収し、42校すべての放課後こどもクラブへ団体リサイクル本2,300冊を提供した。

<子ども文庫>

市内の子ども文庫は12文庫。そのうち「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は9文庫。それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動が続けられている。子どもの身近な居場所として、また、子どもをとりまく大人の交流の場として地域に根づいている。図書館からは文庫活動を支援するために長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供し、サポートにつとめている。

令和3年度も、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、休止する文庫もあったが、時間や人数を制限するなど工夫をしながら活動している。



「子どもと本のまつり」



「スマイルショップへようこそ
～きたむらさとしの世界を楽しもう！～」

毎年、豊子連と共催で「子どもと本のまつり」・「子どもと本のつどい」を実施している。豊子連50周年記念にあたり「子どもと本のつどい&まつり」を同時期開催とし、積極的にPRをおこなった。

「子どもと本のつどい」では、絵本作家のきたむらさとしさんを講師に「スマイルショップへようこそ～きたむらさとしの世界を楽しもう！～」を開催、Web会議システムによるライブ配信も同時におこなった。配信には国外からの参加もあった。あわせて原画展も開催した。

「子どもと本のまつり」では、新型コロナウイルス感染防止につとめながら、集会室でのおはなし会と手作り工作をおこなった。

<おはなしボランティア>

令和3年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響により図書館の集会室利用ができない期間があり、多くのボランティアグループが場所を変えながら、子どもへの読み聞かせのほか、自主的な勉強会や例会、講座など活動を続けた。図書館に関連する各グループの活動内容については「市民との取り組み事業」（9ページ）を参照。「子どもと本をつなぐボランティア講座」（全6回）を実施したほか、「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」Part1では、日本図書館協会児童青少年委員会委員・川上博幸さんにより「子どもの本の紹介文の書き方」をテーマに実施した。Part2では、令和3年度の新刊を会場に集めた「絵本の広場」を開催。新たな絵本との出会いやボランティア同士の情報交換、交流の場とした。同時に豊中市在住の絵本作家・中川洋典さんのトークタイム「絵本へ続く曲がりくねった一本道」と職員による絵本紹介をおこなった。

◆ 動く図書館「とよ1ぶっくる」による巡回サービス

図書館から離れた地域や来館が困難な子どもたちの通う施設へ、動く図書館車に約 3,000 点の資料を載せ、16 ステーションおよび 5 施設を約 4 週間に 1 回の頻度で巡回した。

動く図書館でも、返却と予約受け渡しのみの時期があり、貸出人数はコロナ禍以前より少ないが、個人貸出冊数は以前の水準に戻ってきている。不要不急の外出を控えていた時期に自宅でできる活動として読書の時間が増え、いつもより多く借りる人が多かった。4 週間に 1 回の巡回では本が足りない、もっと頻繁に巡回に来てほしいとの声や、今まで最寄りの図書館を利用していたが、屋外で利用できる動く図書館へ来るようになったという声もあった。

服部緑地都市緑化植物園では「動く図書館@植物園～みどりのライブラリー～」を開催し、巡回貸出のほかおはなし会や、しょうない R E K によるリサイクル本販売もおこなった。

年度後半には、児童発達支援事業所あゆみ、児童発達支援センター、豊中支援学校の通園児へ向けて「おはなし会がやってきた！」をボランティアグループと職員でおこなった。施設の教職員と相談し、クラス毎に開催する・短時間にする・大型絵本やパネルシアターのみで構成する、など感染対策をとりながらの開催であった。

保育所（園）・こども園 5 施設については 2 カ月に 1 回の頻度で配本し、年 1 回の巡回貸出もあわせておこなった。

■貸出人数 6,238 人

■個人貸出冊数 40,072 冊

◆ 図書室

利倉西センター図書室には約 4,300 冊の資料があり、週 2 回午後 2 時から午後 5 時まで開室している。豊島西小学校のバス図書室を移転して 3 年が経過し、コロナ禍にもかかわらず利用実績はほぼ横ばいとなっている。

いぶき図書室は、「青年の家いぶき」改修工事とともない令和 3 年 3 月 20 日から休室し、4 月から令和 4 年 3 月まで近隣の「共同利用施設 穂積センター」の玄関口で週 2 回午後 2 時から午後 4 時まで返却と予約の受け渡しをおこなった。閲覧および貸出用の資料が常置されない中、週 8 時間から 4 時間に半減し、利用は減少した。

(穂積センター玄関口サービス) *

■貸出人数 2,457 人

■貸出冊数 5,867 冊

(利倉西センター図書室)

■貸出人数 1,975 人

■貸出冊数 5,783 冊

* 穂積センター玄関口サービスの数値は「統計・資料」の「いぶき図書室」の数値を参照。

◆ 資料の収集と保存

収集に関しては毎週 1 回、職員で構成する選書委員会で、市内全図書館の資料の選書をおこなっている。「豊中市立図書館資料収集方針」（図書館 Web サイトで公開）に基づき、市民の主体的な生涯学習活動を支援していくために市民の要望および社会の動向にも配慮しながら、教養・調査研究・レクリエーション・ビジネス・日常の生活に役立つ資料を幅広く収集している。新たにデータベースを複数導入し、省スペースで効率的な情報提供の手段を増やした。また、電子書籍の導入についても検討をすすめた。

保存については、野畑図書館書庫を豊中市立図書館全体の書庫としている。職員がそれぞれの図書館で、ま

た定期的に野畑図書館書庫に集まり、個々の資料について保存検討をおこなっているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で集まって会議をすることが困難であった。

(仮称)中央図書館基本構想を踏まえた蔵書の構築および保存につとめていくことが喫緊の課題であることから、日本図書館協会児童青少年委員会委員・川上博幸さんを講師に「除籍と保存についての研修」をおこなった。実際の資料を使ったワークショップなどを通じて、蔵書構築における収集・保存・除籍について考える機会とした。

◆ 人権・平和に関する取り組み

市民向けの取り組みとして、各種資料展示や講演会・パネル展を実施し、職員と市民がともに人権・平和について考える機会としている。

また、職員が人権について理解を深め、市民への啓発につなげるため、年3回の研修をおこなっている。

事業名
市民向け人権講演会・資料展示・パネル展
資料展示「戦争と平和(平和月間)」
資料展示「男女共同参画週間連携展示 2021(男女共同参画週間)」すてっぷと共催(岡町図書館)
資料展示「人権関連資料(人権月間)」(各図書館 蛭池図書館は通年)
参加型展示「平和の木」(庄内、東豊中、高川、蛭池図書館)
作品・資料展示 「豊中第四中学校夜間学級作品展」(野畑、服部、蛭池図書館)
パネル・資料展示「児童養護施設パネル展」(岡町図書館)
作品・資料展示 「読むことが困難な子どもたちの読書の手段を紹介する『りんごの棚』展」 (岡町、庄内図書館)
パネル展示「ユニセフ写真展 コロナ禍における世界の子どもたち」(千里図書館)
ビデオ上映・関連物品やパネル展示・関連図書貸出「思いやりの心が平和を導く(平和月間)」千里公民館と共催(千里図書館)
職員研修
聴覚に障害のある市職員によるオンライン・対面型講義「誰もが働きやすい職場づくりのために～聴覚障害について～」 配布資料：「ママと呼んで欲しいから」「難聴でお困りの方へ人口内耳のご紹介」「知っておきたい難聴治療 世界で45万人が選択した人工内耳」(以上冊子)、振り返りシートの作成、職員間での共有
豊中市人権教育推進委員協議会会長によるオンライン・対面型講義「豊中市の同和問題」 配布資料：法務省・全国人権擁護委員連合会チラシ、振り返りシートの作成、職員間での共有
違法・有害情報相談センター職員によるオンライン講義「情報モラル・リテラシー研修」 配布資料：違法・有害情報相談センターのチラシ、振り返りシートの作成、
「外国人と人権」(動画 YouTube)の視聴、アンケート・レポートの作成、職員間での共有
人権啓発DVDの視聴、感想や意見交換、感想レポートの作成、職員間での共有 「サラマット～あなたの言葉で～」 「君が、いるから」 「江戸時代の身分制度と差別された人々」 「明治維新と賊民廃止令」 「ともに生きる 私たちの未来『部落差別解消推進法』がめざすもの」 「同和問題 未来に向けて」

◆ 研修

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの研修がリモートでおこなわれた。

読書バリアフリー法の施行を受け、今後の図書館における障害者サービスについて学ぶことにつとめた。「レファレンス」・「児童サービス」・「学校図書館」などのテーマについては継続して取り組んでいる。また、行政職員としての知識や技術習得のため、政策課題にそった庁内研修を受講した。

職員が受講した主な研修（職場研修、個人研修含む）

専 門 研 修	一 般 研 修
公立図書館と学校との合同研修 「読書のバリアフリーのための支援資料について」	第2期豊中市子育て・子育て支援行動計画に係る研修会
令和3年度大阪府図書館司書セミナー 「なぜ図書館が必要なのか」等	クレーム対応研修
令和3年度全国公共図書館研究集会	New Education Expo 2021
令和3年度大阪公共図書館協会 児童サービス基本研修・実務研修	障害者接遇研修
令和3年度大阪公共図書館協会 参考業務実務研修	認知症サポーター養成講座
令和3年度大阪公共図書館協会 障害者サービス基本研修・実務研修	情報セキュリティ研修
大子連児童文化講座 「学校図書館におけるICT活用」等	人権研修主任推進員・推進員等合同研修
講演と新刊紹介 2020年出版された子どもの本	著作権法研修
2021年度近畿視覚障害者情報サービス研究協議会 障害者サービス基礎研修会	
2021年度サピエ研修会	
令和3年度障害者サービス担当職員向け講座	
図書館基礎講座2021 in 関西	
令和3年度新任図書館長研修	
令和3年度図書館地区別研修	
令和3年度児童サービス研究交流会	
令和3年度著作権実務講習会	
除籍と保存についての研修 (豊中市の職場研修支援を活用して課内で開催)	
第41回2021年度児童図書館員養成専門講座	
計：48講座 180人参加	計：17講座 387人参加